



時を用い、外部の人に対して賢くふるまいなさい。
いつも、塩で味付けされた快い言葉で語りなさい。(コロサイ人の信徒への手紙 4章5節~6節)
Conduct yourselves wisely toward outsiders, making the most of the time.
Let us your speech always be gracious, seasoned with salt. (COLOSSIANS 4:5~6)



全国優勝祝賀会を開催

団体2、個人3が日本一 ~中高剣道・水泳・自転車~



2月6日、熊本ホテルキャッスルにおいて、熊本県私学振興大会(11月22日)で表彰された全国大会優勝者の功績を称える祝賀会が開催されました。会には、関係各位を来賓に迎え保護者、教職員など、約150人が参加し、優勝の偉業を祝いました。

- 〈12年11月~13年10月〉
- 〈団体の部〉
 - 中学校剣道部
 - 内閣総理大臣賞・文部科学大臣賞・厚生労働大臣賞
 - 第38回全国少年剣道優勝大会 団体優勝
 - 山重安孝 伊南航
 - 坂本尚史 中村拓人
 - 長尾和樹
 - 高校剣道部
 - 第22回全国高等学校剣道選抜大会 団体優勝
 - 全国高等学校総合体育大会(第60回全国高等学校剣道大会)
 - 団体優勝
 - 真田裕行 曾我貴昭
 - 澤田武秀 漆島伊織
 - 古閑章彦 大熊勇輝
 - 山田凌平
 - 第10回全国高等学校招待武蔵旗剣道大会 団体優勝
 - 藤崎大樹 渡部稜也
 - 木屋光晴 井上舜
 - 前田裕希
- 〈個人の部〉
 - JOCジュニアオリンピックカップ自転車競技大会
 - 男子ジュニアスクラッチ 優勝 中村 賢人
 - 第10回全国招待「武蔵旗」剣道大会
 - ▽高校3年の部 優勝 木屋 光晴
 - JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会
 - ▽男子200m自由形 優勝 齊藤 凌

花岡山で熊本バンド早天祈祷会 ~雨の中200人が参加~

1月30日(木)午前6時半より、花岡山山頂の熊本バンド奉教之碑前で、熊本バンド早天祈祷会が開かれました。本校からは院長、チャプレンをはじめ教職員、敬愛会メンバーなど30人が参加し、熊本バンドの精神に思いを寄せました。あいにくの雨となったこの朝、200人の参加者は薪を囲んで讃美歌を合唱し祈りを捧げ、熊本バンドがキリスト教信仰を誓った「奉教趣意書」を九州学院高3年の岩井琴乃(高3)さんが朗読しました。



熊本バンドとは、熊本洋学校で教師ジェーンズの薫陶を受けた青年たちが、花岡山でキリスト教を奉じ、この教えを日本全国に布教しようと誓約しましたが、その時の35人の集団の呼称です。熊本の地に創設された九州学院の建学の精神は、熊本バンドの想いをその源流のひとつとしています。



2013年度の「第33回全国高校生読書体験記コンクール」で、3位に相当する一ツ橋文芸教育振興会賞に選ばれた徳永彩葉さん(高2)が、1月27日、東京ドームホテルで表彰式に出席し、賞状を授けられました。

読書体験記コンクール一ツ橋文芸教育振興会賞に徳永さん

徳永さんは「ミュージック・プレス・ユー!」(津村記久子著)を読み、その感想に自分の体験を加えました。また学校賞として記念の盾と集英社文庫10冊をいただきました。

同コンクールでは1997年の第17回大会で、石原愛子さん(S51回・当時高2)が応募数約13万7千人の中から、鈴嶋克太君(2年)は

から最高賞の文部大臣奨励賞(現文部科学大臣奨励賞)を受賞しています。

聖学院大英語暗誦田畑さんが準優勝

11月16日(日)聖学院大学(埼玉県)で開催された、「聖学院大学主催第9回高校生英語スピーチコンテスト」の暗誦部門の本選で、九州学院の田畑華子さん(1年)が準優勝しました。

今年(13年)は37校から代表一人ずつが出席し、物語・論説・会話の中から

県高校英語暗誦岡山承弘君が優勝

1月25日(土)、熊本学園大で行われた「第26回県高校英語暗誦大会」(県高校教育研究会主催、熊本県教育委員会、朝日新聞社後援)が、11月7日(木)に「熊本市男女共同参画センター1号はあもに」で開催され、米野斐さんが

の1つを3分以内でエスチャーを交えての暗唱を披露しました。

県中学校英語暗誦米野斐さん2位

第41回熊本県中学校英語暗誦大会(熊本県中学校英語教育研究会主催、熊本県教育委員会、朝日新聞社後援)が、11月7日(木)に「熊本市男女共同参画センター1号はあもに」で開催され、米野斐さんが



米田敏郎監督



内村良一選手

熊日スポーツ賞 高校剣道部が大賞、米田監督、内村選手にも

昨年、国内外の諸大会で著しい成果をあげた熊本県関係のチームや選手、優れた指導者をたたえる「第44回熊日スポーツ賞」の大賞に、米田敏郎九州学院剣道部監督が指導者賞として選ばれました。また、全日本剣道選手権で三度目の優勝を果たした警視庁の内村良一選手(S51回)が特別賞、米田敏郎九州学院剣道部監督が指導者賞としてそれぞれ受賞しました。

熊本県私学振興大会(全国優勝者を表彰) 11月22日(金)に「第37回熊本県私学振興大会」がメルパルク熊本において行われ、この一年間で全国優勝を成し遂げた生徒たちが表彰されました。この大会は、県私立中等高等学校振興協議会と県私立中等高等学校協会が主催で、本県の私立学校の振興発展を目的に毎年行なわれているものです。大会では村田信一熊本県副知事などの挨拶の後、要望書・決議書が採択され、この一年で文化活動、体育活動で全国優勝をした生徒や指導者の表彰式が行なわれました。

「神様に支えられて」

九州学院 院長 内村 公春

いよいよ三月。今年の卒業生と一緒に、私も卒業することとなります。振り返れば悔いも多し、残る約40年の勤務ですが、神様に支えられ、こうして定年まで働くことができたことを心から感謝しています。九州学院に勤めはじめから今まで、多くの苦しみ、悲しみ、喜びがありました。そんな中で、特に印象に残っているものがいくつもあります。その一つは、二つの大震災(阪神淡路大震災と東日本大震災)が起きたことでした。阪神淡路大震災は、私が大学時代を過ごした関西での出来事でもあり、友人も多くいた場所であったので、大変心配した出来事でした。高速道路がねじ曲がり、そこに火の手が上がるテレビの映像を見ながら、何が起ったのか受け止めきれない自分自身がありました。しかしこうした破壊の中に希望も生まれました。それがボランティアとして被災者に寄り添う若者を中心とした沢山の人の姿でした。そして、そしてこのことは東日本大震災でも繰り返されることになりました。そこには離れた地に住む私たちが想像できないほどの沢山の悲しみがあり、怒りがあり、涙が出るほどの優しさがありました。そして互いにいのちを支え合い、歩き出そうとする人々の姿に、ほんとうの強さを感じたのです。だから、この二つの大震災を乗り越え、もつともつといい社会となるべきだと私たちは思ったのです。それから時間も経つ中で、こうした思いは弱くなっているのかもしれない。でもその思いをいつまでも持ち続けたいと思います。さて二つ目は、創立百周年の節目に立ち会えたことです。私たちは、ここまで支えて頂いた神様に感謝しながら、創立百周年関係の事業や行事を通じ、創立百周年に立ち会ったのです。つまり、「敬天愛人」という校訓、そして「自分で自分を監督し、役に立つ善人となれ」という教育目標を改めて確認できたのです。最後に生徒諸君に心から感謝を述べます。ちょうど一月二十一日の昼休み、中高の生徒会メンバーやクラス代表の諸君が会議室に集まり、私の退職祝いをしてくださいました。「退職おめでとう」の横断幕を前に、感謝状と記念品を渡してくれました。突然のことです。心から感謝しました。嬉しさでいっぱいお別れです。生徒諸君そして九州学院に、よりいっそう神さまのお導きとお支えがありますように心から祈ります。ありがとうございます。

学院創立記念講演会 「人は死ぬのになぜ生きるのか」

九州学院は1910年の1月19日に国から学校設立が認可され、翌年の4月に開校しました。学院は1月19日を創立記念日に定め、毎年記念講演会と卒業生を送る会を開いています。



今年NPPO法人ウエスレヤン・コミュニケーション・イン・ジャパンの内村公義先生をお迎えし、「人は死ぬのになぜ生きるのか」をテーマに、卒業生を送る会と併せて行われました。

高3に拍手で感謝

講演終了後、高校三年生を代表して古閑章彦前生徒会長が下級生にお礼の挨拶を述べ、校歌を斉唱し拍手に送られて体育館を後にしました。

時習館「道しるべ事業」 五百旗頭真先生が講演

2月4日(火)、九州学院体育館で熊本時習館「道しるべ事業」の特別講演が行われ、熊本時習館館長の五百旗頭真先生が講演されました。

「ここに愛がある」

九州学院チャプレン 富島裕史

「312」と「445」と言えば何と聞かれたら、九州学院の生徒の皆さんは、すぐに答えられると思います。そう讃美歌の番号です。312番は「いつくしみ深き」で445番は「み神とともにすすむ」です。偶然だと思いますが、重要なことに気が付きました。新約聖書のページ数です。312ページは、コリントの信徒への手紙(一)10章13節「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずで、神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます」という箇所、445ページは、ヨハネの手紙(一)4章10節「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償うにえとして、御子をおつかわしになりました。ここに愛があります」という箇所なのです。この2つの箇所は、どちらも私たちの心に深くしみこむ聖句です。

実は、昨年の夏から、ある出来事を通して体調を壊していました。本当に辛い経験でした。しかし、不思議にも聖書の授業を通して、私自身が癒されていったのです。教えることは、学ぶことと言われます。聖書の物語を生徒の皆さんに語ることによって、私が多くのことを学ばせていただきました。今回がこの九学通信での、私の最後のメッセージになります。どうか、悲しい時、辛いことがあったら聖書を開いてみてください。必ず神さまの慰めと優しさに触れることができます。「ここに愛がある」のですから…。

卒業記念「ミニチャペル」をグラウンド大楠樹横に移設

新制第52回の同窓生から2000年3月に卒業記念品として学校に寄贈されたモニュメント(ミニチャペル)が、このほどグラウンドの大楠樹の近くに移転設置されました。以前は旧正門(東門)の横に設置されていましたが、創立百周年に際し周辺整備のため仮置きされていた場所からの移設となりました。



育友会(PTA) 秋の講演会を開催

10月25日(金)午後1時半より、九州学院プラウニング・メモリアル・チャペルにおいて恒例の九州学院育友会主催秋の講演会が開催されました。今回は、ドリームネットワーク代表で、感動教育家の高光りようすけ氏をお迎えし、「子供を輝かせる源は感動力にある」という演題で講演していただきました。

主の生誕を祝うクリスマスイベント多彩に

11月29日に九州学院のクリスマス・イルミネーションの点灯式が行われ、在校生、教職員、保護者、同窓生、一般の方など約200名の参加者が、それぞれキャンドルを片手にブラスバンド部の演奏に合わせ、クリスマス讃美歌を歌い、富島チャプレンのメッセージに耳を傾け、アドベントのプロローグを祝いました。



学校クリスマス礼拝

12月20日(金)、中学生、高校生、教職員など約1500名が体育館に一堂に会し、クリスマス礼拝が行われました。トーンチャイム同好会の前奏で始まった第一部は、敬愛会や自羊会が中心となつて聖書朗読、讃美歌斉唱などを行い、富島チャプレンから「暗闇の中に光を」と題したクリスマスメッセージがあり、大いに賑わいました。

宗教特別伝道講演会 講師にG・マリールイス氏(ルワンダ)

11月26日(火)、恒例の宗教特別伝道講演会が宗教学部で実施されました。今回の講師はNPPO法人ルワンダの教育を考える会のカンベンガ・マリールイス氏で、「生きる」ということ、「神様と共に」という演題でお話をしていただきました。



韓国・文泰学園と生徒会が相互交流

10月27日(土)30日、教師2名(池永事務局長、関口高3学年主任)と旧高校生徒会メンバーら生徒5名が、韓国・木浦(モツポ)市にある文泰(ムンテ)学園を訪問しました。一行は、文泰学園の生徒の家にホームステイしながら、学校を訪問し、教師や生徒たちと交流をはかり、ソウルでの観光も行いました。

ブラウン・メモリアル・チャペルで大江教会主催の礼拝

日本福音ルーテル大江教会のクリスマス礼拝がブラウン・メモリアル・チャペルで行われ、大江教会関係者、九州学院関係者(生徒、ステイし、学校訪問や熊本市の観光を楽しみました。九州学院は同校と1991年に交流を始め、毎年教師や生徒代表の訪問団や中学校の修学旅行団が相互に交流を続けています。

交換留学生二人が帰国

オーストラリアのアデレード市にある九州学院の姉妹校インマヌエル・カレッジからの交換留学生エイドリアン君、アンディー君の二人が、一年間の熊本での生活を終え、1月13日に帰国の途につきました。二人はホームステイ生活を楽しみながら学院に通い、授業の他に日本語の個人レッスンも受け、日本の文化についても勉強をしました。またクラブ活動もそれぞれ弓道部、バレー部に属して練習に汗を流し、充実した学院生活を送りました。

フィリピン中部台風救援金 84,123円を募金

高校生徒会とボランティア部が共同で募金運動を行い、県国際教会「2013年フィリピン中部台風救援金」に全額送金しました。

米国から新留学生

2月1日、アメリカ・サウス・ダコタ州からケイゴ・ガン君(15歳)が留学生として九州学院に入学しました。ケイゴ君は母さんから通学します。

交換留学生二人が帰国

オーストラリアのアデレード市にある九州学院の姉妹校インマヌエル・カレッジからの交換留学生エイドリアン君、アンディー君の二人が、一年間の熊本での生活を終え、1月13日に帰国の途につきました。二人はホームステイ生活を楽しみながら学院に通い、授業の他に日本語の個人レッスンも受け、日本の文化についても勉強をしました。またクラブ活動もそれぞれ弓道部、バレー部に属して練習に汗を流し、充実した学院生活を送りました。



アンディー君



エイドリアン君



文泰学園の皆さん

同窓会のページ PART 1

特別寄稿

ハンドボール部 昭和24年に初優勝

小田省二 (S2回・1950年卒)

井上元二先生の主導により、九学にハンドボール部が創設されたのは終戦後の昭和23年頃ではなかったかと思ひます。...

昭和24年後半の頃だと思ひますが、九学OBで熊本ハンドボール界の重鎮である藤田八郎先生(愛称ジープさん)率いる、...

当時のハンドボール競技のコート面積は、サッカー競技のそれと同じで、また選手数もこれまた同じく11名の構成となっていました。

私は卒業後、熊本県庁に入庁しましたが、同期に宿敵済々黌ハンドボール部員であった2名が居り、その後懇意の仲となり業務面でも何かと助かること少なからずありました。



恒例「秋の芸術鑑賞」

劇作家・演出家 田上豊氏(S54回)

母校で上演「報われません、勝つまでは」



「見たら元氣の出る芝居」をモットーに演劇創作を行い、2006年の同劇団旗揚げ以来、関東を中心に活動を続けています。

10月17日から3日間、九州学院多目的ホールにおいて恒例の「芸術鑑賞」が行われ、今回は、九学OBの田上豊氏(S54回)が主宰する、プロの劇団「報われません、勝つまでは」の代表作「報われません、勝つまでは」...

同窓会主催「奨学生・給費生を励ます会」を開催

10月16日(水)、会議室において恒例の同窓会主催「奨学生・給費生を励ます会」が行なわれました。



中高の奨学生、給費生51名をはじめ、松村敏人同窓会会長・関係職員計約70名が会議室に集まり、弁当をいただきながら「励ます会」のひと時を過ごしました。「医者になりたい」「弁護士になりたい」「東大には入りたくない」「科学者になりたい」「なりたい」など次々に夢を語る頼もしい生徒たちに、温かい拍手が送られました。

「歴史資料・情報センター」がリニューアル

九州学院創立100周年記念事業の一環として、2011年の秋に完成した「歴史資料・情報センター」が、11月9日(土)の九学祭の一般公開の日に合わせて、リニューアルオープンしました。

アメリカのルーテル教会の熱い祈りと献金で建てられた九州学院の100年の歴史が、貴重な資料などの展示と共に紹介されています。

なお、初代センター長には、九学OBで元熊本大学教授の浅川牧夫氏(S12回)が就任しました。まだ一部の未整備の部分を残していますが、4月には完全オープンを目指しますので、皆様方のお越しをお待ちします。



浅川牧夫 新センター長

箱根駅伝

1月2日、3日に行われた第90回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)読売新聞社共催)の区間エントリーに、高校別では九州学院が西脇工業(兵庫)と並び10人と全国トップとなりました。今後も九州学院OB選手活躍が大いに期待されています。

- 補欠 宮川翔太(2年) 神奈川大学
4区 井上雄介(3年)
7区 中神慎也(1年)
上武大学
8区 根岸成光(3年) 期待のホープ 青山学院のエース久保田和真選手は膝の故障のため出場出来ませんでした。

出身高校別で九学がトップの10人

北朝鮮拉致問題の集会 松木薫氏(S24回)の救出を!



12月15日(日)、熊本県庁において、「北朝鮮の拉致問題を考える集会」が行われ、古谷圭司拉致問題担当大臣が基調講演の後、拉致被害者松木薫氏の姉齋藤さんらが解決を呼びかけました。

政府は毎年12月10日から16日までを「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」と定めており、県が啓発事業の一環として今回の講演会を行ったもので、九州学院からも院長や関係教師、育友会の会長をはじめ役員数名が参加しました。

松木氏は1976年に九州学院を卒業。1980年、京都外大大学院生時のスペイン留学中に失踪。後に北朝鮮に拉致されていることが判明。2002年に当時の小泉首相の訪朝の時に政府が拉致被害17名の中の一人として松木氏を認定。それまではMさんという匿名で家族を中心に問題解決に向けての活動が行われていました。

松木薫氏の母、92歳のスナヨさんは長年病床にあり薫氏の帰りを待ち続けていましたが、再会を果たせぬままに1月11日に天に召されました。松木スナヨさんのご冥福を心からお祈りすると共に、ご家族の皆様にお悔やみを申し上げます。

「九学通信(107号)」写真掲載の訂正とお詫び
先日発行しました「九学通信107号(10月14日発行)」の第3面の藤田八郎先生に関する記事で写真を誤って使用してしまいました。先生はもとよりご関係の方々に大変ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。藤田八郎先生

2014年4月18日(金)

九州学院 大同窓会

子ども同伴大歓迎! 小学生以下無料

受付 18:00
総会 18:30
懇親会 19:00

会場 ホテル日航熊本 (096)211-1111

会費

- 【一般券】 男性7,000円 女性4,000円
【シニア券】 昭和32年3月卒業(S9回)以前の同窓生4,000円
【ヤング券】 平成15年3月卒業(S55回)以降の同窓生4,000円
● 同伴者 3,000円(当日販売)

同窓会のページ

PART 2

母校のチャペルで若手の会主催 成人祝福式を挙げる



1月13日(月)、今年成人を迎えた九州学院の卒業生(丁62・S64回)を母校に招き、

ペルにて成人祝福式(同窓会若手の会主催)を挙行しました。

会には新成人・同窓生・保護者・教職員など約200名が参加。富島裕史チャプレンの司式で行われた祝福式は、聖書朗読、讃美歌斉唱、祝福のメッセージなどを中心とした厳粛なものでした。



10月19日、東京九学会(島本誠会長・S30)の「平成25年度定時総会・懇親会」が、東京グランドホテルにおいて開かれました。

11月9日(土)のお昼にホテル横浜ガーデンにおいて、「神奈川支部

3月2日(日)17時より、博多都ホテルにおいて「福岡九学会

2月8日(土)、テルサで「県警九学会」の懇親会が行われ、熊本県

1月5日午後5時から交通センターホテルにおいて恒例の「九州学院卒業生(旧称OB)

羽ばたく同窓生



競泳混合200M リレーで日本新 宮本靖子選手(S65回)

ズンから新規採用された種目で、混合200メートルリレーの日本チームのメンバーは、荻野公介選手をはじめ4人全員が東洋大の学生です。



高良健吾氏(S58回) ブルーリボン賞に初の主演男優賞に

1月22日、東京映画記者会(スポーツニッポン新聞社など)在京スポーツ7紙の映画記者で構成)が選ぶ第56回ブルーリボン賞(13年

「男女混合」は今シ

熊日新聞「わたしを語る」勝野洋氏(S20回) 回(森本孝氏)(S10回)

度)の各賞が決まり、主演男優賞に「横道世之介」を好演した高良健吾氏(S58回)が初受賞し、2月11日に東京・内幸町の「イイノホール」で授賞式が行われました。



彫刻家・二科会員 橋本恵史氏(S23回)

九州学院OBで彫刻家の橋本恵史氏(S23回・1971年卒・ボクシング部)は、これまで様々な彫刻を中心とした作品を制作し、彫刻に関する多くのイベントに参加してきました。

現在二科会会員として、幅広く精力的に制作活動を展開しています。九州学院のキャンパスにも「羽ばたく」などの作品が寄贈されており、それらの作品

ルでは参加者が思い出話やお互いの近況を報告したりと大いに盛り上がりました。

関西九学会 母校の応援で回結

年末に関西で開催される二天全国大会、駅伝とラグビーの県代表に母校九州学院が出場するという幸運に恵まれ、地元関西九学会

福岡九学会 総会懇親会を予定

3月2日(日)17時より、博多都ホテルにおいて「福岡九学会」の総会と懇親パーティーを開催します。なお、現会長の緒方清司氏(S7回)が本総会の終了をもって退任し、後任には野々口稔氏(S22回)が就任するため、会長交代式も併せて行うことになって

久しぶりの懇親会

1月5日午後5時から交通センターホテルにおいて恒例の「九州学院卒業生(旧称OB)職員同窓会」を開催

甲子園初出場から半世紀

九州学院高校野球部は学院創立と同じ年の1911年に創部された、学院では最も伝統のあるクラブです。これまで甲子園には春夏合わせて12度出場し、巨人の史上最強の5番打者と言われた柳田選手をはじめ、多くのプロ野球選手を輩出しています。

今、新たなステージへ

九州学院が初めて甲子園に出場したのは1963年(昭和38年)の夏です。昨年から半世紀という節目の年でした。 当時は熊本、大分の二県から九州代表一校を決めていたが、1963年夏の第45回大会は記念大会のため各県一校が出場でき、熊本大会決勝で宿敵鎮西を3対2のサヨナラで破った九州学院がそのまま代表権を獲得しました。

甲子園初出場から半世紀

2014年は初出場から51年目という新しいステージに立つことになり、昨年の九州大会熊本予選でベスト4入りをした実績からも新チームに大きな期待が寄せられます。頑張れ九州学院野球部!!

各地の同窓会

- 11月4日 阿蘇郡市同窓会
11月21日 市役所九学会
11月30日 苓北支部
12月6日 阿蘇中部同窓会
12月14日 泗水九学会
12月16日 県庁九学会
3月2日 福岡九学会(予定)
3月16日 小国郷九学会(予定)
4月18日(金)九州学院大同窓会

豪日協会の副会長 ベンスパロウ氏が来校 (元留学生)が来校

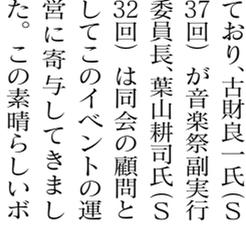


12月11日(水)、九州OBのお笑いコンビ「からし連根」が、全国から応募した2千組以上の中から8組だけが登場する「U-20お笑い日本一決定戦ワラチャン」に出場しました。11月20日(水)放課後に人

「オハイエくまもと」 熊本県民賞を受賞



オーストラリアの文化交流の架け橋として活躍中です。 と「入部祥子代表が、このほど「第24回くまもと県民文化賞」を受賞しました。



九州学院同窓生らが関係している、「NP O 法人オハイエくまも



九州学院高校野球部は学院創立と同じ年の1911年に創部された、学院では最も伝統のあるクラブです。これまで甲子園には春夏合わせて12度出場し、巨人の史上最強の5番打者と言われた柳田選手をはじめ、多くのプロ野球選手を輩出しています。 九州学院が初めて甲子園に出場したのは1963年(昭和38年)の夏です。昨年から半世紀という節目の年でした。 当時は熊本、大分の二県から九州代表一校を決めていたが、1963年夏の第45回大会は記念大会のため各県一校が出場でき、熊本大会決勝で宿敵鎮西を3対2のサヨナラで破った九州学院がそのまま代表権を獲得しました。 甲子園では抽選により二回戦から登場し、初戦は足利工(栃木)と対戦。1イニング連続12出塁、同連続11得

